

信仰の長い歴史を持つ東北の名山 高山植物も豊富 出羽三山

実施日 2015年7月11日(土)～12日(日)
 天候 晴れ
 リーダー 涌井 良明
 参加者 服部美千代、涌井良明、山崎富美恵、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、伊藤久雄、宇野輝代、徳山敬子、石附恵理子、濱田優美子、清水久子、宮崎敏男 計13名
 費用 JR25,320円(東京起算) バス4310円 宿泊10,940円 合計40,570円
 タイム 7/11 鶴岡(12:26～12:57)随神門BS(13:40～13:45)羽黒山(15:00～15:15)休暇村羽黒(16:05)泊
 7/12 休暇村羽黒(7:10)月山八合目(8:00)仏生池小屋(9:55～10:05)月山三角点(11:05～11:10)月山神社直下(11:20～12:05昼食)金姥(13:10～13:15)沢1405m付近(13:40～13:50)装束場(13:57)湯殿山神社(14:50～15:00参詣)湯殿山BS・仙人沢(15:05～16:45)鶴岡駅(18:00～18:22)いなほ新潟(20:07～20:19)大宮・東京(22:28)

7/11 梅雨真っ只中、3個同時発生の台風が何とも気掛かりだったが、両日とも今年一番の夏らしい天気恵まれて、数百年にも亘る山岳信仰の名山を訪れることができた。まさに出羽三山の神々の恵みがあつたからかも知れない。感謝 感謝!

新潟からカラフルデザインの快適な快速列車『きらきら羽越』を鶴岡駅で降りる。この夏初めて真夏の日差しを浴びる、アツ～イ!



羽黒山行のバスは貸切状態。出羽三山登拝口の随神門BS(旧羽黒センターBS)で下車、随神門をくぐって山頂

(出羽神社)に向かう。登山ではあるが、巨木の杉並木が居並ぶ石段登りだ。千年を越すとされる爺杉を見て、次は国宝の羽黒



山五重塔と観光客に混じって進む。樹齢数百年の巨木に感嘆しつつ、石段を登って登って羽黒山神社境内の山頂に。

一際立派な三神合祭殿(羽黒・月山・湯殿三山神社を合せて祀ってある)に安全登山のお参りをする。

駐車場脇から古の参拝道を下る、出羽神社最大の行事の秋の峰入りが行われる峰中堂脇を抜けて下り、車道を左に僅かで宿舎の休暇村羽黒に着く。夕食まで思い思い楽しみ、何時もながらの賑やかに食事～部屋会となって1日目が過ぎる。

7/12 前日からのお約束通り今朝も快晴、7時10分宿前から月山八合目行のバスに乗る。久しぶりの天気と日曜も重なり満席のバスは一気に標高1388mの月山八合目に駆け上る。駐車場も既に満車状態だ。

登山道は入口からすぐに弥陀ヶ原の木道になる、湿原を周回する木道が整備されているが、直進する木道を進む。



すぐに原を彩る花々が出迎えてくれる、ゼンテイカ、フウロ、シオガマ、イワイチヨウetc. 山頂に正面に向けた御田原参籠所の鳥居をくぐって緩やかな登りを行く。木道後は石畳が飛び石状になったりする道を徐々に高度も上がる、振り返ると鳥海山が美しい、カッコイイ!

一の岳の先で涼しさを感じて小雪溪を過ぎ、やがて仏生池小屋に着く。標高も1700mも越えてじっとしていると暑さもすぐに引いていくようだ。



残りは200m余りの登りである、オモ

ワシ山直下を過ぎてモックラ坂と呼ばれる山頂への急登を越し、左に雪溪を登る道と分かれて右側の稜線上に位置する月山三角点(黎牛山)へ登る。

見えなかった西側の展望が開け、朝日連峰の連なりもお目見えである。

稜線を神社のある方向へは進めないの
で、一旦下の登山道に戻り多くの登山者
が寛ぐ神社下で我々も昼食にした。

急遽夜行で月山にやって来た、会員とも
会うこともできた(山頂で別れスキー場



Pに下山し
て行った)月山の最高
点は月山神
社が鎮座し
ているの
で、立ち入
りは有料。

山頂を示す標識なども見当たらないの
で、神社の建物を背景に写真を撮って、出
羽三山三つめの羽黒山へ向かう。頂上小
屋前の先で肘折温泉へ下る分岐を過ぎて
鍛冶小屋跡付近から牛首に向けて一気に
急下降の道になる。岩ゴロの道で思いの
外足場は良くない。しかもこの好天と日

曜で、折しもスキ
ー場方面から登
ってくる登山者
と我々を含めた
下り組が双方か
ら列をなし、行き
違いをするために



至る所で渋滞が起きている。牛首で左に
スキー場リフト方面と分かれて稜線上を
進む、ここで人の群れからは解放される。

気にしていた雪溪も難なく通過して、し
ばらくで金姥の分岐に、直進で姥ヶ岳へ
登る道と右へのパスルートになるが、メ
ンバー諸氏の何となくパスしたような雰
囲気もあってここはパス道へ。

山腹を回り込むように進み、姥ヶ岳北西



に伸びる尾根か
ら沢状になった道
に入る、途中で雪
溪を横切るが、既
に痩せて距離も短
く問題なく通過
できた。





雪溪の残る沢で雪解けのミ
ネラルウォーターで一息入
れる、これが美味かった。
正面に湯殿山本峰が大き
くなる、思いがけず開
花中のミズバショウにも
会えてラッキー！ 小屋
の立つ装束場で、左に志
津方面の道を

分け、湯殿山神社に下る月光坂へ向かう。
道は樹林帯に居るが、すぐに鉄ハシゴが連

続する急下降に
なる。ハシゴが
終わっても岩伝
いに足場を刻む
ような急な沢状
の下りが続く。
信仰心を試され
る修験道でもあ
るためか、決し
て楽な下りでは
なかった。



急傾斜が終わり、沢沿いの高巻きのよう
な道から、いきなり神域・撮影禁止とな
っている湯殿山神社(本宮奥ノ院)の参拝
所が現れる。参拝客が大勢見られるが、
ここで裸足になって沢を徒渉してお祓い
を受け初めて参拝が許されるそうであ
る。ただの登山者の我々は橋を渡って小
さく登り返し登山口にもなっている、湯
殿山神社入り口に出た。丁度湯殿山BS
(仙人沢)への参詣シャトルバスの時間
も良かったのでそれに乗って湯殿山BS
へ、の待ち時間に参
籠所で一浴、喉も潤して鶴岡駅行の
に乗る。以降も計画通りの
列車に乗車、流れ解散
となって終了した。

二日共快晴に恵まれ、夏山気分満点の山
行ができた。東北の山らしく多くの花々
との出会いや、残雪・展望、そして数
百年の歴史を重ねる信仰の山にも触
れることもできた山行になった。

計画に沿って、ほぼ予定通りに完了
できたのもメンバーの協力があればこそ
だが、今回我々を快く迎え入れてくれた
出羽三山の神々にもメンバー共々改めて
感謝したい。ア・リ・ガ・ト・ウ。

この山行が各位のこぶし会、印象の山
旅になってもらえたら幸いです。

(記&写真・涌井 良明)